



令和時代の理科教育を創造する全小理

全国小学校理科研究協議会

会長 杉山 勇

(江戸川区立二之江第二小学校長)

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことをふまえ、社会生活では様々な制限が解除されてきました。教育現場においても、マスクの着用の判断や対面での活動など制限が解かれていく中、充実した教育活動の実施に向けての取組が活性化してきています。単に、コロナ禍前の教育活動に戻るのではなく、GIGAスクール構想の推進に伴う1人1台端末の活用など、新たな教育活動を生み出す工夫が求められています。

このような中、全国小学校理科研究協議会第1回理事会を対面で実施することができました。御来賓として出席くださった文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査 有本 淳 様、国立教育政策研究所学力調査官 川上 真哉 様、日本理科教育振興協会会長 大久保 昇 様、全小理顧問の皆様、また、会場を提供してくださった内田洋行株式会社様には感謝申し上げます。本理事会において指名・承認をいただき会長の職を務めることになりました。ポストコロナの中、取組の推進を図る重責を感じますが、力を尽くしてまいります。新役員一同、よろしく願い申し上げます。

理事会後には、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 有本 淳 様に「新たな理科教育の創造に向けて」という演題で御講演をいただきました。講演の中で、現在の小学校理科教育の課題をふまえ、全小理に期待することとして、「子供自身による問題解決の充実」「指導と評価の計画の充実と周知」「子供の選択によるICTの日常的な活用」「多様な学びの形態」を示されました。『令和の日本型学校教育』においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進め、資質・能力の育成を図ることが求められています。全小理の組織力を生かし、より多くの具体的な実践を積み重ねながら研究を進めてまいります。

第56回全小理神奈川大会では、大会主題「グローバル社会を生き抜く心豊かな人間を育てる理科教育」を受け、大会の研究主題を「自然に親しみ、共に豊かな学びを創り続ける子どもの育成～問題を見いだし、つなげ、理科を学ぶ意義を考える、令和時代の問題解決～」としました。学習指導要領の趣旨が浸透するとともに、1人1台端末が普及し、多様性が求められる等、大きな変化に直面しています。「問題の見いだし」「つながり」「理科を学ぶ意義」を大切に授業づくりを通して、学習指導要領が目指す「3つの資質・能力の育成」を目指すとともに、各都道府県の優れた実践の交流を通して、全小理の活動の振興を図ってまいります。

今後も、文部科学省、各都道府県教育委員会、各区市町村教育委員会、全小理顧問、及び日本理科教育振興協会各社の皆様には、変わらぬ御支援、御助言を賜りますようお願い申し上げます。